

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800083
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	鹿児島県出水市庄973-1 (電話) 0996-82-5511
自己評価作成日	平成28年2月13日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境に恵まれ冬場は鶴が空を舞う姿が見られます。敷地内には、築山を造り季節の花を植え、畑には野菜を作って利用者様と収穫を楽しんでおります。館内は、1.2号棟各9室(内1室は畳室)の居室になっており、中央に明るく広いフロアを設け、楽しい食事の場として、他者と触れ合い憩える場として多目的に活用して頂いております。このような環境のもと利用者の思いを尊重し介護者としての責任を持ちサービスの提供を行っております。大切なご家族をお預かりしているという意識を常に持ち続ける事で丁寧なケア、利用者や家族に寄り添った関わりを心がけていております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に2ユニットで開設した当ホームは、国道を少し入り込んだのどかで閑静な住宅地に位置している。広々とした園庭は花壇や菜園もあり、日常的に利用者の散歩や外気欲などの気分転換の場として活用されている。

災害時などの避難誘導に容易な平屋造りであり、全体に清掃が行き届き、明るさやゆとりの広さなど、すべての面で利用者の安全や安らぎの生活空間になる様に設計されている。

運営推進会議や自治会を通して、地域との交流も積極的に進められており、近隣住民のボランティアの受け入れや、年間を通して敬老会などの地域行事へもなるべく多く参加できるように支援している。高齢化が進む地域の福祉相談なども気軽に受け入れている。

管理栄養士の資格を持つ施設長の食へのこだわりは強く、2ユニットの台所を担う専任の調理師を配置している。旬の食材を用い、状態に応じたバランスの良い食事は利用者の元気の源になっている。

職員は有資格者が多くスキルアップの意欲も高く持ちサービスの質の向上につながっている。利用者が住み慣れた地域でその人らしく、穏やかな生活が過ごせるように尊厳を大切にきめ細かな支援に日々努めている

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	月1回のスタッフ会議などで繰り返し理念を確認する事によって共有し実践に繋がるような介護のあり方を考え行動できる様にしている。	開設時に全員で話し合い、合意の結果、関連施設と共有の理念を掲げている。尊敬の念を大切に、思いの汲み取りや傾聴を重んじたケアに力を入れ理念の具体化に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加させて頂き地域の情報など得られるよう努めている。又、利用者の自治会の敬老会に参加させて頂いたり、民生員さんが施設にきて小物の作り方を教えて下さる事もある。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議は地域交流の大切な機会になっている。高齢化が進む地域の福祉相談などにも気軽に応じており、日常的な散歩での挨拶やボランティアの受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	心肺蘇生やAEDの使い方について消防署から定期的に学んでいる。地域の方にも参加してもらい必要に応じ対応できる様に呼びかけている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会や民生員、家族、行政の方に参加してもらい施設の活動方針など報告し、意見や感想、助言など頂きサービスに活かせるよう努めている。	ホームの現況報告や課題等について意見交換が行われ、サービスに反映している。地域に役立つ情報は民生委員を介し、地域のサークル活動にも活かされている。行事との合同開催や家族参加の見直しも含め、マンネリ化傾向の会議の内容を検討する意向である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務や利用者に関すること等その度、相談し助言など頂けるようにしている。	運営推進会議への出席もあり、ホームへの理解は得られている。都度、電話や訪問で相談や情報交換も出来ており、市の担当者を講師に招き研修を行うなど、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回研修に参加して理解を深めると共に日常に置いてベッドの4点柵を禁じ、各部屋、棟の出入口など鍵をすることなく拘束をしないケアに努めている。	年に1回、地域包括支援センターより講師を招き研修会を開いている。職員は身体拘束の知識や理解を深めており、日々のケアに活かしている。言葉による抑制には特に注意を払い、管理者は、気付きは都度、注意を促し、安全を確保しながら、職員の見守りと連携で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回研修に参加して日々の生活を振り返りスタッフ間で話し合うことで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部からの学識経験者を招き講習会を開いたり各地域施設等で行われる研修会に参加して知識理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に関する契約書などを読んでもらい特に重要な点をお伝えしながら説明を行っている。その際、疑問点や不安な点がないか確認しながら契約を交わすようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けたり面会や電話などで話す機会を作り、互いに意見や要望等言えるようにしている。必要に応じスタッフ会議など利用し職員全員で話し合い反映できる様努めている。	年1回開く家族会では、家族だけの時間も設けるなど工夫をしている。面会時や電話連絡などの機会を大切にしながら、意見や要望の聞き取りをしている。出された意見、要望は全員で話し合い、サービス向上に繋げている。遠方で面会が難しい家族もあり、2カ月おきに発行する通信内容の充実も図る方向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	互いに意見や提案を言える関係作りをしている。スタッフ会議で、話し合ったり申し送りノートで伝えるなど行い反映させている。	全員参加のスタッフ会議を月1回開いている。現場での気付きや提案は全員で協議しサービスの改善に向けている。殆どの職員が有資格者であり、多種の研修をはじめ教育にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境に努めている。実績や勤務状況の把握を行い向上心を持って働けるよう努めている。労働的負担がないよう作業工程の見直し等も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を作り、向上できるように努めている。外部研修は参加した者がスタッフ会議を利用し発表してもらい研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し研修や交流会等に参加している。又、施設見学や施設の状況など木聞かせて頂いたりし交流が持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前情報をスタッフ全員で確認し過去の生活歴、価値観を十分に把握し何を必要とするのかに関わりを持ち傾聴し不安を取り除く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪の際は、施設内での様子を伝え、家族の気持ちを会話しながらくみ取り可能な範囲内の要望には対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援を必要としているのか、どのようなサービスが提供出来るかスタッフ間で話し合い統一したケアが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事出来ない事を見極めプライバシーに配慮し利用者の意図を尊重し行う様心がけている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を行い利用者の気持ちを代弁したりして関係が途切れないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の来訪時には、部屋へ案内し気兼ねなく過ごせる環境の場を提供している。又、馴染みの方への手紙には返事を出して貰う等支援を行っている。	馴染みの美容室や、かかりつけの病院受診などを支援している。自宅のある地域行事に参加したり、電話や手紙も活用し、これまで築いた馴染みの人や場との関係が途切れないように、家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事への参加を促しお互いの信頼関係が深まるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族に偶然お会いした場合にもその後の様子を尋ねたり、移られた先に面会やお見舞いに行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に尋ねたり本人から聞き取りが困難な方に対しては日頃の様子から居室担当を中心に話し合い、思いに添えるように努めている。	少数ではあるが、意思を確認できる利用者也居る。難しい場合は家族を介した情報や、日々のケアの中で表情、所作などから感じ取り、職員で共有している。入浴時など1対1のリラックスした場面も大切にしながら、思いの汲み取りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活や家庭環境など家族や本人、在宅のケアマネより情報収集し把握した上でこれからのケアに繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察しながら日常生活において必要な事の手伝いやレクリエーション散歩など行ってもらいながら把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には担当者会議を行い課題ケアについて話し合い本人に合ったプランになる様努めている。又、3カ月毎にその方に適したプランであるかプラン通りに支援できているかモニタリングを行っている。	計画作成担当者は利用者及び家族の思いや意向を踏まえ、居室担当者の意見も取り入れ、全員で話し合って介護計画の作成をしている。3カ月毎のモニタリングでプランの確認を行い、常に現状に即した介護計画になるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに添ったケアが出来ているかやその時の様子など個人別記録に記載し職員全体で共有できる様にしている。又、気づきや対応の仕方などに関する事は申し送りノートを使用し対応出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ知り得た情報の中で速やかに対応できる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物、鶴展望所や花見見学などお連れし楽しんで頂けるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医を持っておられる方は継続して頂いている。家族の事情や本人の状態で受診が困難な方には、往診が可能な病院か協力医など相談しながら決めて頂いている。	入居前からの希望のかかりつけ医を支援しており、受診時は原則家族が同行している。状況により他科受診などは看護職員が同行することもあり、柔軟に対応している。心身の状態変化を密に観察し、利用者の日頃の健康管理は適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事細やかに情報を共有し体調の変化等が見られる時には看護職員へ相談し指示を仰ぎ適切な対応ができる様に協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医師とカンファレンスを行い安心して治療ができ早期に退院できるよう努めている。又、病院受診の時などに情報交換や相談をすることによりさらに良い関係を築けるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と十分に話し合いを行い必要があれば病院や他の施設との連携を取り、利用者の状態に合ったケアができる様に事業所で出来る事は支援行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、重度化や終末期に向けたホームの方針を家族に説明し、同意書を交わしている。状態変化の都度、主治医の指示を仰ぎ、家族の意向を再確認すると共に、職員も方向性を共有し、可能な限り希望に添えるように、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救急法の講習や看護職員による応急手当や初期対応の指導を受け実践に役立てるように訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は、年2程実施しており地域の消防団にも参加に協力して頂き、地震、水害等においても協力得られる様努めている。	年に2回、消防署立ち合いの避難訓練とホーム独自で夜間を想定した自主訓練を行っている。通報・避難・消火の一連の訓練には自治会長や地域の消防分団の参加もある。避難時の利用者の見守り役など、地域の協力体制に具体的な役割分担も盛り込めるないか検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに置いても一人ひとりの性格や状況を考えながら対応行いプライバシーを損ねないように努めている。	利用者個々に合った丁寧な声かけや対応を日々心がけている。居室のトイレはプライバシーや羞恥心へ配慮した造りになっている。些細な事にも気を配り、尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方がその時その時では何をどのようにしたいのか尋ね本人が自己決定できるようにしたり自己決定が困難な方には選択肢できる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決められてはいるが、声掛け行い無理強いすることなく本人のペースで行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝洗面後は、紙を整えて頂いたり衣類の乱れがないか確認はさせて頂いている。服も選べる方には好みの物を着て頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえは利用者の方も楽しみながら行われている。食事の感想を聞き食べたいもののか伺ったりしている。食後はテーブル拭きやお盆拭きを行って頂いている	メニューはカロリーや栄養配分を考慮して管理栄養士が作成している。調理師の専任を配置し、誕生日や花見弁当、おせち料理など目先を替えた行事食も利用者の楽しみになっている。状態に応じ負担なく摂れるようにミキサーや刻み食などに配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを維持し個々の状態に応じた食事量と水分量は確保出来ている。水分量が足りない場合は好みの物に変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと磨けているか口腔内の確認や中には仕上げ磨き等の介助を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりに応じ声掛けを行い排泄時の見守りと個々の力に応じた支援を行っている。夜間帯は時間を見て声掛け誘導を行い排泄の失敗の軽減に努めている。	排泄チェック表の活用やサインの観察で個々に応じた誘導でトイレでの排泄に向けている。職員は尿意がなくても便座に座る感覚で排泄を促す様に粘り強い支援をしている。タイミングをみた誘導や声掛けで、パット使用が減り、家族の経費軽減にも貢献している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を体調管理表で把握しバランスの良い食事と毎日の体操や散歩などに参加して頂くことで予防に努めている。病院より下剤が処方されている方には服用してもらい対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時に拒否がある時は時間をずらしたり翌日に入ってもらっている。個々に応じた見守りや介助を行い適した温度や入浴剤を使用する事で気持ち良く入浴して頂いている。	基本は週3回であるが、必要や希望に応じ回数や時間などは柔軟に対応している。ためらう利用者には時間をずらしたり散歩に出るなど気分展開を図り無理強いのないように支援している。近隣に温泉施設もあり家族と出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めてはいるがその方の生活習慣に合わせて、その日の体調を考慮しながら休んで頂いている。入床後は安全を確認しながら見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は施設で行いスタッフ全員が薬に対して理解できるようにたずさわり薬説明書を見ながら1人ひとりの薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活においての手伝いは毎日行って頂いたり時には順番で行って頂いたりしている。レクリエーション、体操など行い楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回は外出支援として買い物に同行して頂いている。行事として初詣やお花見、鶴見学など1年間通して外出の機会を設けている。なじみの場所や希望においては家族の方の協力を得て出かけられるよう支援している。	初詣や花見、鶴見物など年間を通し季節に応じた多彩な外出が計画されている。日常的には近隣や園庭での散歩が日課になっているが、週1回は買い物をメインに近距離ではあるがドライブも楽しんでいる。家族の協力も得ながら、外気に触れ、季節感や社会生活との関わりを大切に支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、その方に応じて出来る方にはお金を持って頂き自分の生活用品を買える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在、電話を使う方はいないが、家族が遠方の方には電話で話して頂いたり、手紙を貰うと返事を書いて頂いたり出来るだけの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く広い空間の他、季節や行事ごとに季節感のある花や物を飾ったりして居心地良く過ごせる様工夫している。又、各居室にトイレを設置しておりプライバシーを損なわないよう配慮している。	天窓のあるリビングは明るく、広々としている。清掃が行き届き、不快な音や臭いもなく清潔に保たれている。ソファの配置や空調も管理され利用者に合わせ安らぎの空間になっている。時節の花や置き物を飾り、利用者の作品や写真からは日頃の生活が伝わる工夫をしている。毎年、誕生日の写真を色紙にして居室前に飾り、自室の目印にも使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも座るテーブル席の配置には気を配り、全員が気持ち良く過ごせる様気を付けて考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に机やイスを置いたり、畳みに座布団で座れるようになっていたり、と個々がくつろげる空間になるよう工夫されている。	水洗トイレの設置があり、夜間帯の排泄にも配慮している。使い慣れたテーブルセットや家族写真、ぬいぐるみや手作りの作品などを飾っている。認知の症状により家具の配置やシンプルにまとめた居室もあり、個々に応じ案して暮らせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普段リビングでは、手引き歩行や歩行器使用の方でも居室では手すりに掴っての伝い歩きができる様に動線を考えるなど工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない